

# 紹介

## ●圖書

●訂正大日本時代史 十二冊  
増補

早稲田大學出版部先きに大日本時代史(十冊)を出版して豫約者に頒ちてより既に八星霜、此間斯界の進歩と共に重要史料の新に発見せられたるもの、史論の訂正を要すべきもの二三にして止らず、且其完本の坊間にあるもの殆んど絶無となれるより、昨年五月以來滿一年間を期して其訂正増補版(十二冊)を豫約者に頒つことせられ、こゝに其完成を告げたるは學界の爲め慶賀に堪へず。今これを見るに、古代史及徳川時代史を各々二冊宛に改めて全部十二冊となし、各冊(幕末史を除く)共に各其著者の改訂を経て或は字句を改修し或は章節を分合して其面目を一新せり。就中久米博士の古代史及奈良朝時代史及南北朝時代史を暢達平易なる文章に改め古代史には高麗好太王碑の寫真及其讀本と文學士今西龍氏の「廣開土境好太王陵碑に就て」と題する一論文を附收し、三浦博士の鎌倉時代史には元寇助壘の寫真を加へ、吉川本吾斐鏡以下の新史料等を參取して隨所に原文を補修し且つ幕末顛覆に至るの記

事を追加し、渡邊世祐氏の室町時代史には足利尊氏の性格の評論を新にし義持元服の事に關する「春の世の夢」の記事及應永廿六年の朝鮮來襲の記事を削り、同氏安土桃山時代史には、織田氏の祖先に關する新研究を加へ、武田晴信と足利義昭との聯合、晴信の對園城寺策、信長の成功と朝山日乘安國寺慧叟等緒徒の斡旋を記述せるは其著しきものなり。(早稲田大學出版部發行「中村」)

●歴史と人物 文學博士 三浦周行著

本書は博士が史的研鑽の傍ら、起稿せられたる史的人物論の中廿有六篇を輯録したるものにして、紙數七百餘頁實に前後二十有餘年に亘れる勞作の一端なり。古來史的人物論の世に公にせられたるもの少からざるも、概ね人物の外面的描寫に止るか、又は俗語虚傳を根據とす、然るに幾多波瀾に富める史上著名の人物は複雑錯綜せる社會の事情に圍繞せらるゝが故にこれが史的批判は容易の事にあらず。著者は其該博なる智識と、燦爛なる史眼とを以て、精緻なる史的考證を経曲折多き人生も、極めて明快に論斷し、一般の誤解を招ける人物はこれを正せり。態度慎重、著眼公平、加ふるに溢るゝ如き同情を以てす、文章また流麗にして暢達到處警句あり、諷刺あり、諧謔ありて、興趣盡くることなし。

今書中の數章に就て其人物批判の立脚點の一端を窺はんに、源義